



# ♡あいさつだより♡



第3号

2019. 2. 20

文責：中札内小学校 研修部 助川 真澄

連日、冷凍庫に入っているような寒い日々が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？子どもたちはこんな中でも、朝から元気にあいさつをしてくれます。自分から進んであいさつしてくれる子どももいれば、こちらからあいさつすると、小さな声で返す子もいます。

学校評価アンケートの結果を見ると、「元気よくあいさつができる」ようになったとされている保護者、児童の割合が少しずつですが増えてきました。今年度、コミュニティ・スクールや学校全体で取り組んできた成果だと思えます。児童会の朝のあいさつ運動も、地道に行われてきました。今後も元気で気持ちの良いあいさつが習慣となるよう、指導を継続していきます。ご家庭におかれましてもご協力お願い致します。



## 呼ばれたらすぐに！

みなさんは、良い返事やあいさつとはどういう仕方だと思えますか？もちろん大きい声でとか、はきはきした声で、とか、声のことだと思うでしょう。もちろん、声は大事です。しかしその他にも良い返事のために必要なことがあります。それは「呼ばれたらすぐに返事をする」「遠くからでもあいさつをする」ということも大切です。次の2つの返事を比べてみてください。

一つ目です。「助川さん」「・・・はい」

二つ目です。「助川さん」「はいっ！」

2つ目の方が感じ良いのではないのでしょうか。それは、名前を呼ばれたり、用事を頼まれたりしたときに間があると、相手の人に「この人は何か不満があるのだろうか」と思わせるからです。間をあげずに返事をする事で、返事に気持ちをこめることができるのです。それから、もうひとつ。みなさんの姿を見つけて、遠くからでもあいさつされたら、うれしくなりませんか？それは、自分のことを気にかけてくれていたのだと、相手のやさしさを感じるからです。みなさんも、思い切って少し遠くからでもあいさつしてみませんか。

## 保護者の方へ

今回は、あいさつや、返事のマナー的な部分に触れてみました。さて、唐突ですが、保護者のみなさんは、病院等で、名前を呼ばれたときに、相手にしっかり聞こえるような声で返事をされていますか？

子どもは大人のことをよく見ています。一番身近な家族があいさつや返事の良いお手本でありますように。

昔から「一つ叱って 二つ褒め、三つ教えて よき人にせよ」と言います。教えること、褒めること、叱ることのバランスが、子どもを伸ばす上で大事だということです。優しさも、厳しさもあって、初めてバ

ランスのとれた教育ができるのだと思います。

良い返事やあいさつを教え、いいところは存分にほめ、また、できないところもしっかり叱り、そして子どもたちに本物の力をつけてやるのが、保護者の方や教師の大事な役割です。

そうして培った本物の子どもの力を、心から褒めたいものです。

(参考文献：山中伸之「返事・挨拶の上手な子に育てる10のポイント50の技術」ひまわり社、2009)